

（１）基礎調査の結果をふまえた 庁舎周辺まちづくりの視点と方向性について 【概要版】

1. 対象地区の現況調査・分析

主な基礎調査項目

①人口・世帯

②土地建物利用

③産業・観光

④交通
(広域、地域、歩行者通行)

一部作業中

作業中

不動産市場調査 (他都市比較を含む)
⇒市場動向や投資のポテンシャルを把握

- ・オフィス(需給動向、賃料、空室率等)
- ・ホテル(施設数、客室数、平均客室単価、稼働率)
- ・商業(商圏、空室率、成約賃料等)
- ・住宅(賃料、空室率、販売価格等)等

市民・事業者等・地権者の声

集計中

R6年度実施、継続実施予定

作業中

1. 市民の意向(対象地区の評価)
⇒市民目線での対象地区の魅力、
問題点(具体的な場所)、必要な
機能に関するニーズを把握
※市民アンケート調査

2. 事業者のニーズ等
⇒民間事業者のアイデアや開発
事業等への参画意向の把握
※サウンディング型市場調査
(一部地権者含む)

3. 地権者の意向
⇒建替え等に関する意向、
支援ニーズ等を把握
※地権者アンケート調査

作業中

市独自の関連制度のレビュー
⇒活用条件、活用状況等を把握

建替え等の支援制度

ウォークブル施策

企業立地支援

2. 庁舎周辺まちづくりの方向性の検討・整理 (対象地区全体)

仮説

庁舎周辺まちづくりの視点

庁舎周辺まちづくりの方向性

くまもとまちづくりラボ

⇒新庁舎整備を契機としたまち
づくりについての意見やアイ
デアを把握

3. 実現に向けた取り組みの検討

モデル街区の抽出・ケーススタディ

現庁舎跡地にふさわしい都市機能の調査・可能性の整理

取り組みの検討

計画の推進体制

庁舎周辺まちづくりプランとりまとめ

資料3-1、
3-2

資料3-3

資料3-1、
3-2

1. 調査対象地区の位置付け

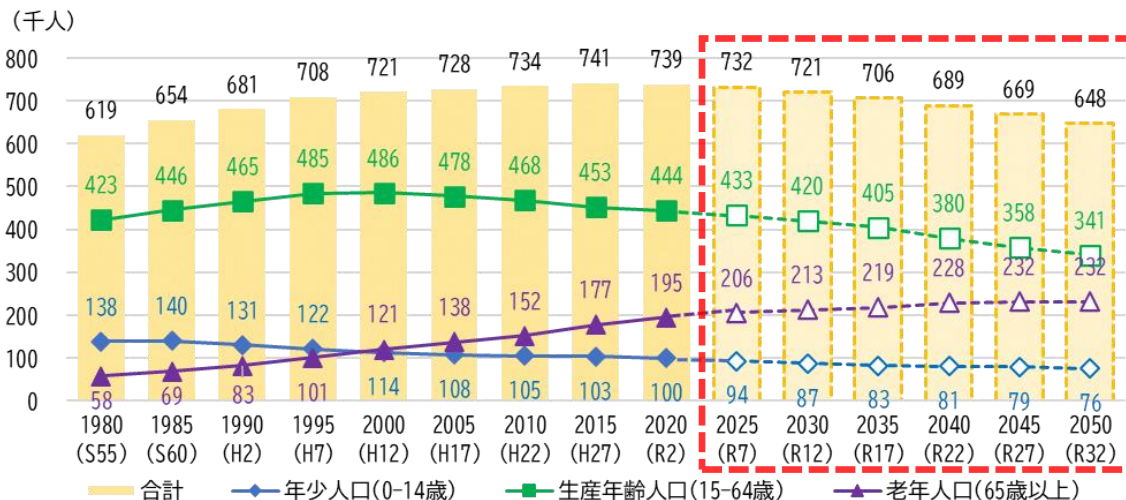
2. 調査対象地区の特性 (基礎調査まとめ)

調査対象地区の現況（要点）

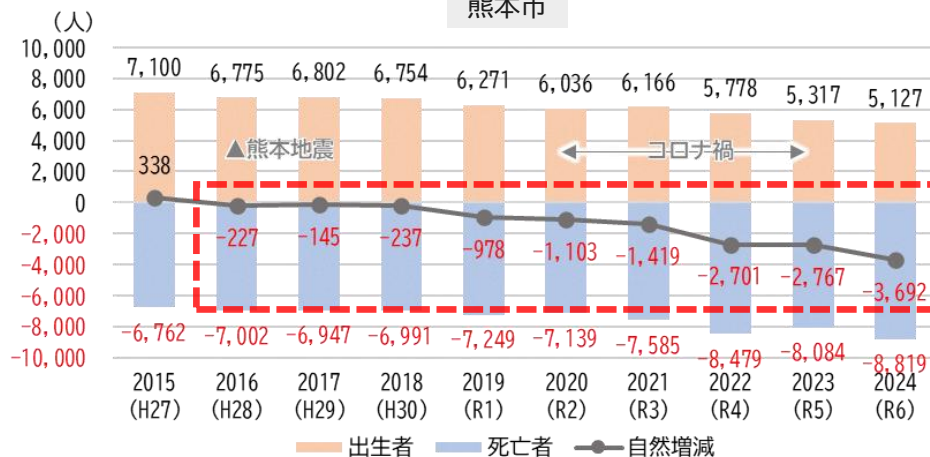
【市全体】

- ①熊本市の人口は減少局面にあり、今後は少子化と高齢化が進む
- ②自然減が増加する一方で、直近では転入者数が転出者数を上回り、社会増が続く

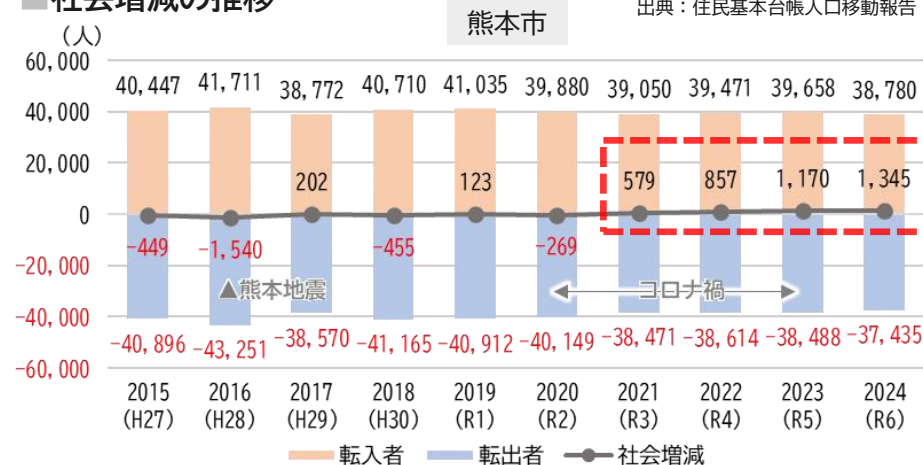
年代別人口の推移と推計



自然増減の推移



社会増減の推移



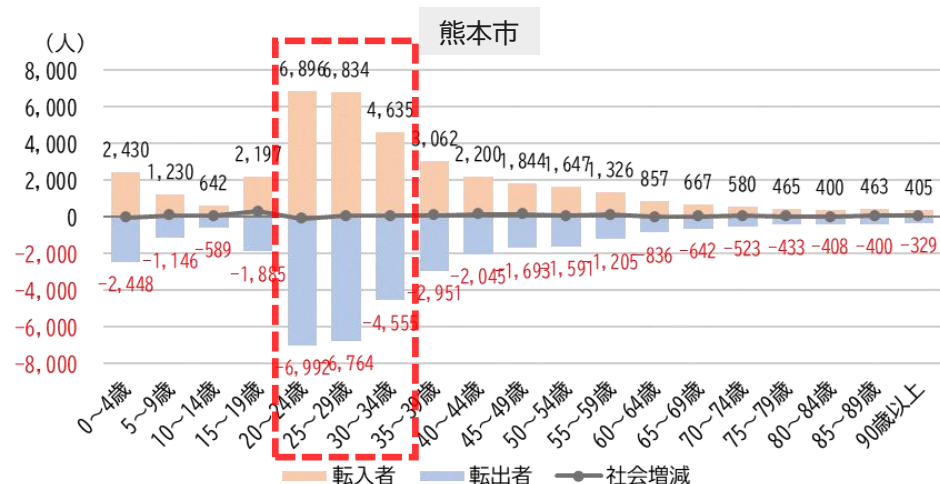
1) 人口・世帯

調査対象地区の現況（要点）

【市全体】

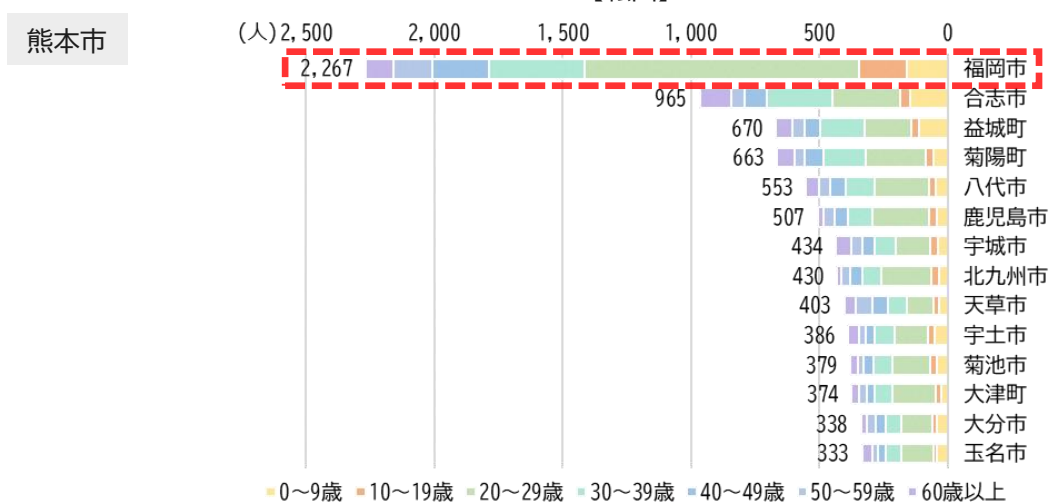
- ③若年層のうち進学や就職を行う年代の転出入が多く、特に福岡市への転出が多い
- ④人口減少への対策として、「抑制策」と「適応策」を推進中（第8次総合計画）

■ 年齢別転出入の状況

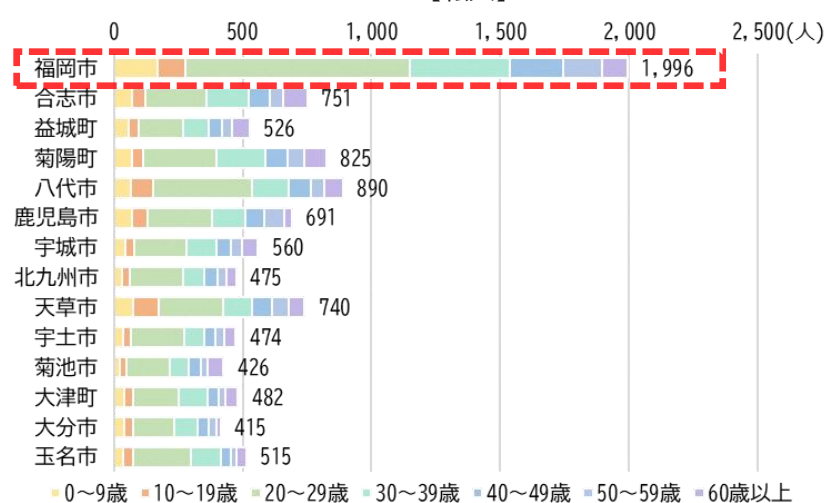


■ 転出入の状況

【転出】



【転入】

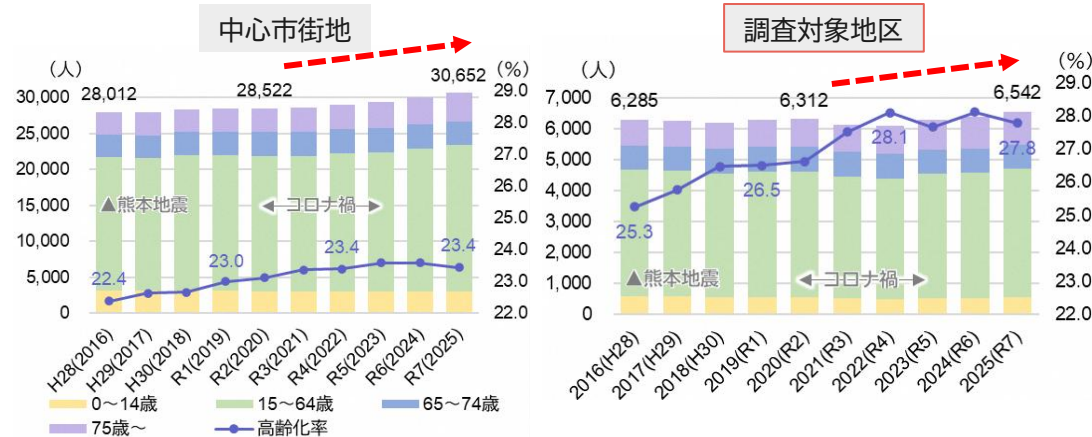


調査対象地区の現況（要点）

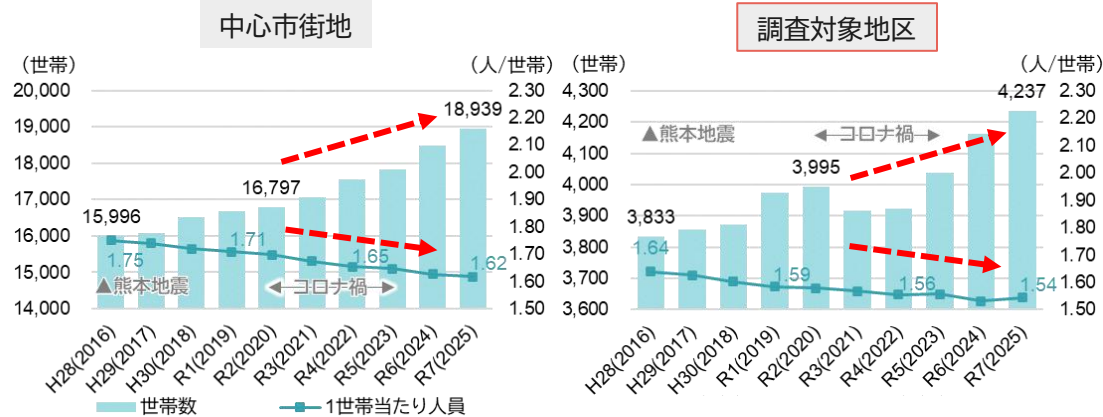
【調査対象地区】

- ⑤ 中心市街地の人口は増加傾向、世帯は小世帯化が進む
- ⑥ 調査対象地区も同様に微増しているが、中心市街地に対して高齢化率が高い（市全体と同水準）
- ⑦ 市全体・中央区ともに通勤・通学は流入超過で求心力が高く、地区内の昼間人口は上通・下通・桜町・市庁舎周辺に集中

年代別人口の推移

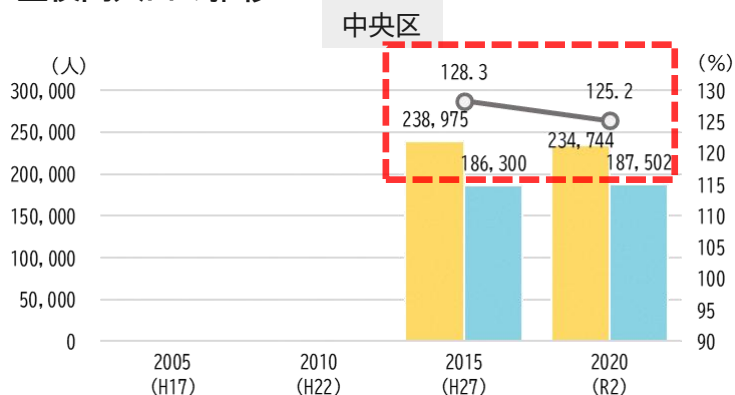


世帯数及び世帯人数の推移



出典：住民基本台帳

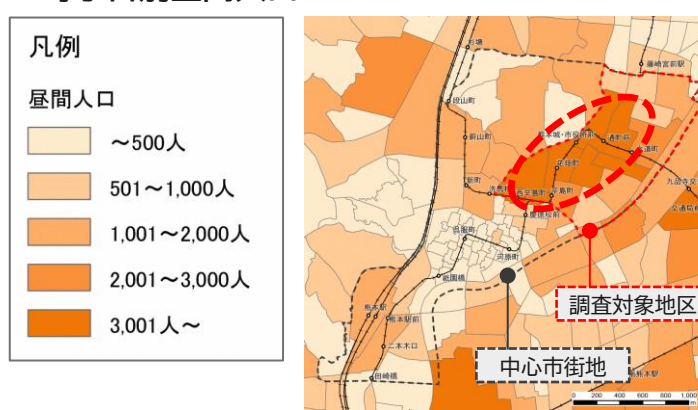
昼夜間人口の推移



出典：国勢調査

町丁目別昼間人口

出典：令和3年度都市計画基礎調査



- 昼間人口
- 夜間人口
- 昼夜間人口比率

昼間人口：常住人口から通勤・通学の流入を差し引いた人数(買物客などの非定期的な移動は含まれない)
 夜間人口：常住人口
 昼夜間人口比率：常住人口100人当たりの昼間人口の割合。100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示す

調査対象地区の現況（要点）

【市全体】

- ①熊本市の人口は減少局面にあり、今後は少子化と高齢化が進む
- ②自然減が増加する一方で、直近では転入者数が転出者数を上回り、社会増が続く
- ③若年層のうち進学や就職を行う年代の転出入が多く、特に福岡市への転出が多い
- ④人口減少への対策として、「抑制策」と「適応策」を推進中（第8次総合計画）

【調査対象地区】

- ⑤中心市街地の人口は増加傾向、世帯は小世帯化が進む
- ⑥調査対象地区も同様に微増しているが、中心市街地に対して高齢化率が高い（市全体と同水準）
- ⑦市全体・中央区ともに通勤・通学は流入超過で求心力が高く、地区内の昼間人口は上通・下通・桜町・市庁舎周辺に集中

まちづくりの論点

▶まちなかへの流入人口（居住者）の増加や通勤・通学の流入が多い経済的活動拠点としての求心力を活かす

▶人口減少、少子高齢化の流れを踏まえた若年層の人口流出抑制
（例：企業誘致など働く場の創出、若者が憧れるライフスタイルが実現できるまちづくり）

2) 土地建物利用

9

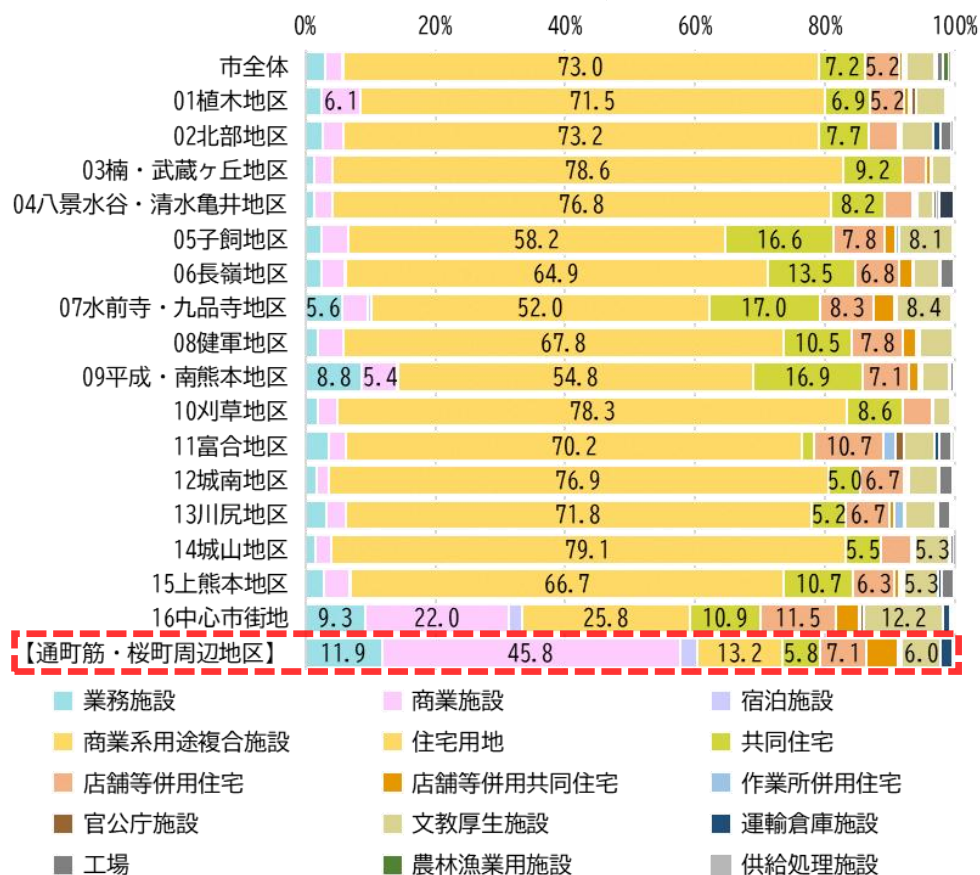
調査対象地区の現況（要点）

- ① 中心市街地の中でも調査対象地区に商業・業務施設等が集積
- ② 商業施設の棟数が約46%で全体の半数近くを占め、通町筋、桜町の2つの核と上通・下通・新市街の3つのアーケード沿いと下通周辺の繁華街に集積。通町筋以北は、通町筋以南と比較して併用住宅が多い。業務施設は約12%で、花畑町、桜町、水道町など電車通り沿いや国道3号沿いに立地。住宅(併用住宅を除く)は19%で、井川淵町、南千反畑町など地区の北東に集積

■ 主要用途別の建物分布



■ 主要用途別の棟数割合(中心市街地及び地域拠点との比較)



出典：令和3年度都市計画基礎調査

調査対象地区の現況（要点）

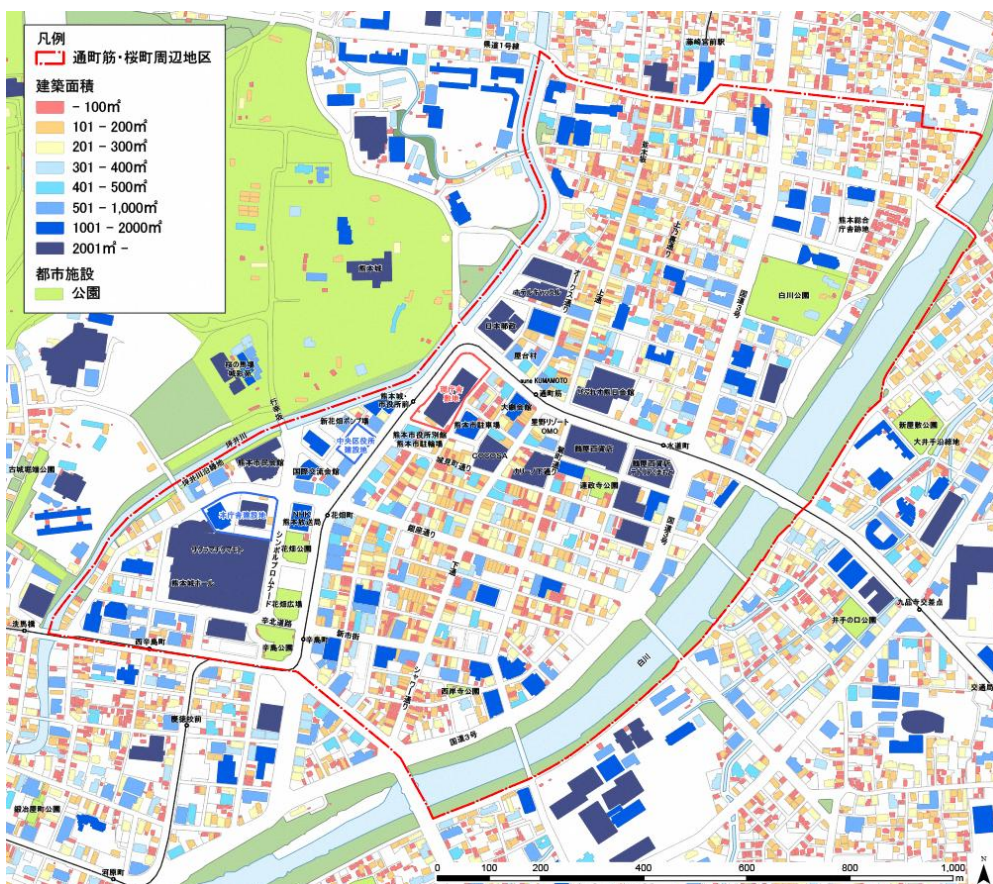
◆電車通り沿いの特徴

- ・業務施設が集積し、中高層のオフィスビルが連続して立地
- ・比較的大規模な敷地が並び、延床面積の大きい建築物が立地
- ・電車通りは幅員15m以上

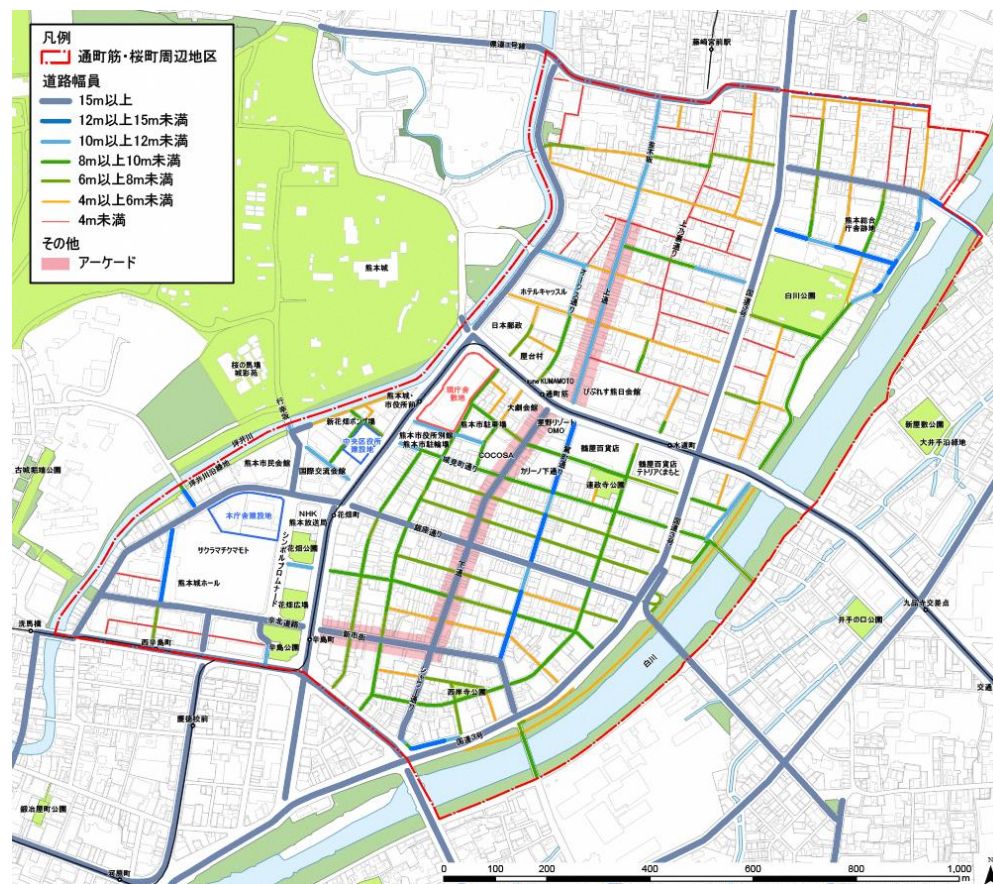
◆電車通りの内側（中心商店街）の特徴

- ・小規模な敷地が多く、延床面積500㎡以下の比較的小規模な建築物が集積
- ・通町筋以南は中層の建築物、通町筋以北は低層の建築物
- ・通町筋以南は幅員6m以上の格子状の道路構成、通町筋以北は狭隘な道路も多い
- ・狭隘な道路に面する敷地は、建替えの際にセットバックが必要な他、斜線制限や容積率低減等の影響を受けやすい

■ 建築面積の規模別の建物分布



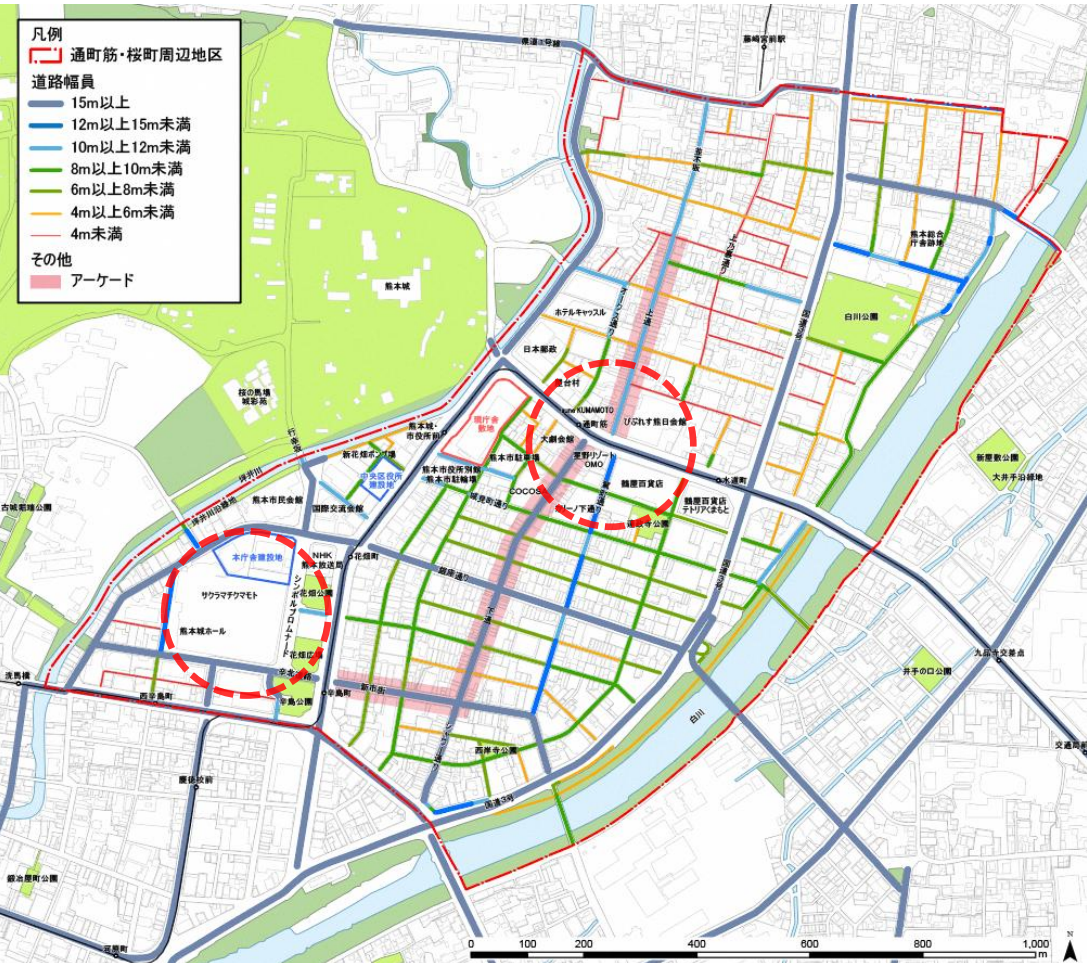
■ 道路幅員現況



調査対象地区の現況（要点）

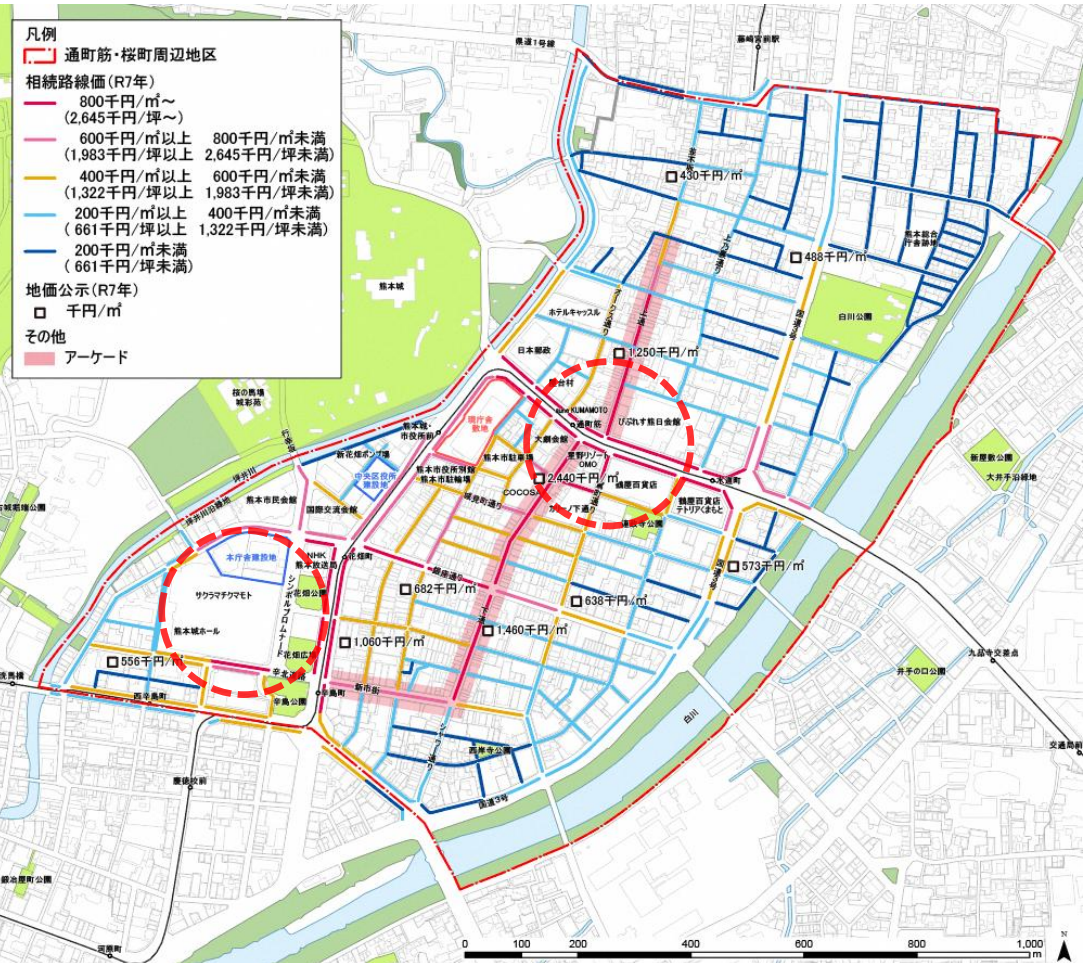
- ③ 2核3モールの骨格として、通町筋以南は、戦災復興第一土地区画整理事業にて整備された道路が接続し、回遊しやすい基盤を形成。一方で、通町筋以北は、狭隘な道路が残る。
- ④ 2核3モール及び電車通りの地価が高く、並木坂や上乃裏通りなど相対的に地価が低いエリアにも商業集積が見られる

道路幅員現況



出典：令和3年度都市計画基礎調査、道路台帳をもとに一部編集

相続路線価と地価公示（2025(R7)年）



出典：国税庁、国土交通省

調査対象地区の現況（要点）

- ⑤ 電車通り沿いに中高層建築物が立地。中心商店街周辺は南側は中層、北側は低層の建築物が多い。
「熊本市景観計画」では、熊本城周辺地域の景観形成基準として、建築物等の高さが海拔55m（一般地区）を超えないこととしている。
熊本らしさを印象を高める景観形成を進めるため、市民や来訪者から愛され、かつ熊本らしい眺望を望むことができる場所を、視点場として設定している。

階数別の建物分布



視点場からの眺望

c 花畑広場(シンボルプラザ)から熊本城への眺望



e 長堀通りから熊本城への眺望



d 通町筋電停付近から熊本城への眺望



f 市役所前から熊本城への眺望



h 桜井通り付近から熊本城への眺望



i 船場橋から熊本城への眺望



j 天守閣から市街地への眺望



調査対象地区の現況（要点）

⑥地区全体に老朽建築物が分布し、地震に弱い建築物が多い

⑦地区全体が防火地域・準防火地域に指定されており、堅牢建物が多い

調査対象地区の北側の一部には木造が点在し、上乃裏通りではこれを活かしたリノベーションが進む

■ 建築年別の建物分布



■ 構造別の建物分布



2) 土地建物利用

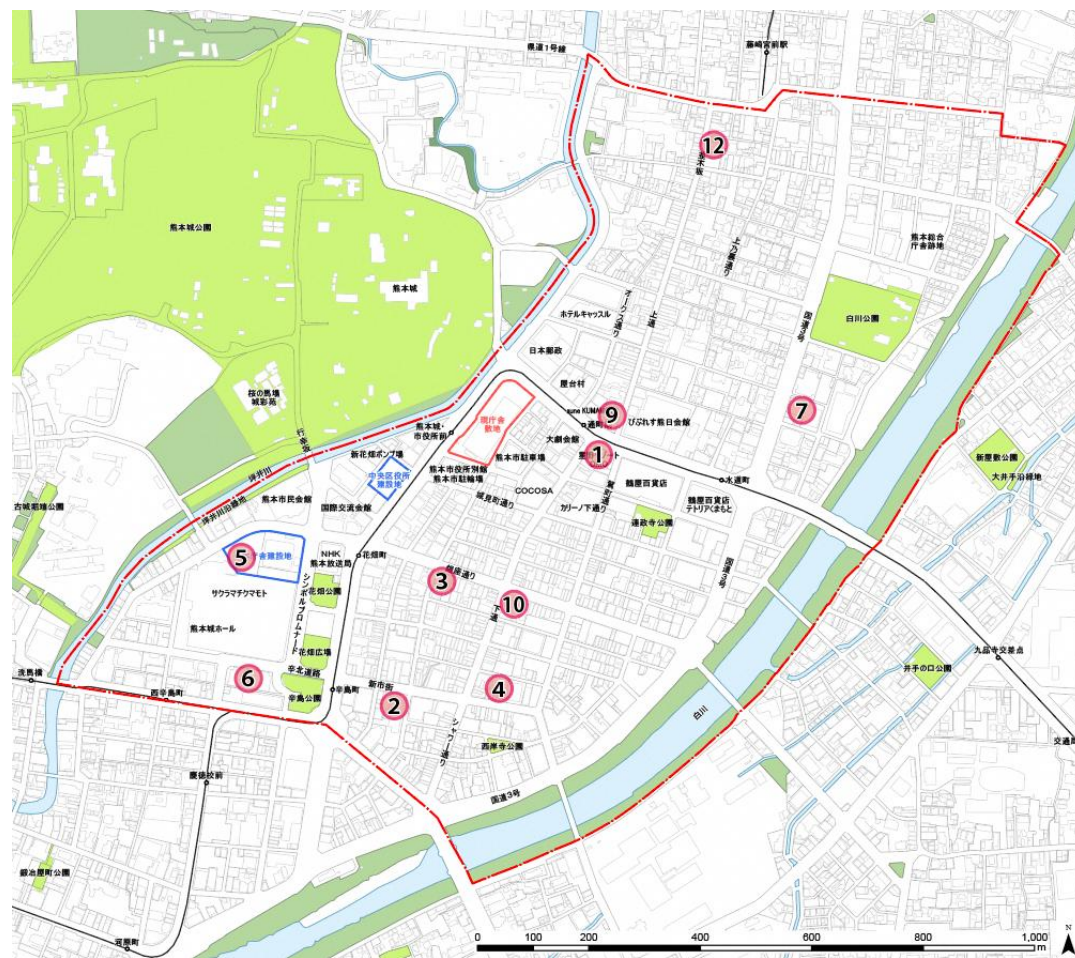
調査対象地区の現況（要点）

⑧老朽化した建物の建替えを促進し、耐震性、防火性を向上させ、また、空地を生み出すことで、災害時の避難・活動空間を確保し、まちの防災力向上を図ることを目的に、中心市街地を対象に2020(R2)年度より「まちなか再生プロジェクト」を始動

■まちなか再生プロジェクト適用案件

指定番号	建物名	建物概要		まちP活用			基準の特例承認	
		用途	階数	容積率緩和	高さ基準特例承認	財政支援	容積率緩和制度	高さ基準の特例承認制度
1	Shinsekai下通GATE	ホテル・商業	地上11階	—	—	○	—	—
2	TERRACE87	ホテル・商業	地上12階	—	○	○	—	総合設計同等
3	ダイワロイネットホテル熊本銀座通りPREMIER	ホテル	地上13階	—	—	○	—	—
4	相鉄グランドプレッサ熊本	ホテル	地上11階	—	—	○	—	—
5	NTT西日本桜町ビル	ホテル・事務所・商業	地上14階	—	○	○	—	—
6	日本生命熊本ビル	事務所・商業	地上13階	○	○	○	総合設計制度	総合設計制度
7	水道町フォディアビル	事務所・商業	地上6階	—	—	○	—	—
8	JR熊本春日北ビル	事務所・商業	地上6階	—	—	○	—	—
9	甲玉堂	事務所・商業	地上3階	—	—	○	—	—
10	KK下通銀座クロスビル	商業	地上5階	—	—	○	—	—
11	ヴィアインプライム熊本（仮称）	ホテル・商業	地上10階	—	—	○	—	—
12	熊本市中央区南坪井町6計画（仮称）	共同住宅・商業	地上18階	—	○	○	—	総合設計同等

■まちなか再生プロジェクト適用案件 位置図



調査対象地区の現況（要点）

- ① 中心市街地の中でも調査対象地区に商業・業務施設等が集積
- ② 調査対象地区の建物棟数の約半数が商業用途で、業務用途が約 1 割、住宅・共同住宅が約 2 割、併用住宅が約 1 割
 - ◆ 電車通り沿いの特徴
 - ・ 業務施設が集積し、中高層のオフィスビルが連続して立地
 - ・ 比較的大規模な敷地が並び、延床面積の大きい建築物が立地
 - ・ 電車通りは幅員15m以上
 - ◆ 電車通りの内側（中心商店街）の特徴
 - ・ 小規模な敷地が多く、延床面積500㎡以下の比較的小規模な建築物が集積
 - ・ 通町筋以南は中層の建築物、通町筋以北は低層の建築物
 - ・ 通町筋以南は幅員 6 m以上の格子状の道路構成、通町筋以北は狭隘な道路も多い
 - ・ 狭隘な道路に面する敷地は、建替えの際にセットバックが必要な他、斜線制限や容積率低減等の影響を受けやすい
- ③ 2 核 3 モールの骨格として、通町筋以南は、戦災復興第一土地区画整理事業にて整備された道路が接続し、回遊しやすい基盤を形成。一方で、通町筋以北は、狭隘な道路が残る
- ④ 2 核 3 モール及び電車通りの地価が高く、並木坂や上乃裏通りなど相対的に地価が低いエリアにも商業集積が見られる
- ⑤ 電車通り沿いに中高層建築物が立地。中心商店街周辺は南側は中層、北側は低層の建築物が多い。景観形成基準が定められ、熊本城への眺望が確保された視点場を複数設定
- ⑥ 地区全体に老朽建築物が分布し、地震に弱い建築物が多い
- ⑦ 地区全体が防火地域・準防火地域に指定されており、堅牢建物が多い
調査対象地区の北側の一部には木造が点在し、上乃裏通りではこれを活かしたリノベーションが進む
- ⑧ 老朽化した建物の建替えを促進し、耐震性、防火性を向上させ、また、空地を生み出すことで、災害時の避難・活動空間を確保し、まちの防災力向上を図ることを目的に、中心市街地を対象に2020(R2)年度より「まちなか再生プロジェクト」を始動

まちづくりの論点

- ▶ 商業・業務等の都市機能の集積と2核3モール+東西方向のラダー（はしご）型の道路による高い集客・回遊ポテンシャルを備えた都市構造を活かす
- ▶ 高度な都市機能が集積するゾーンや商業地の多様な施設が集積するゾーン、熊本城への眺望が確保された視点場など、場所毎の特性を活かす

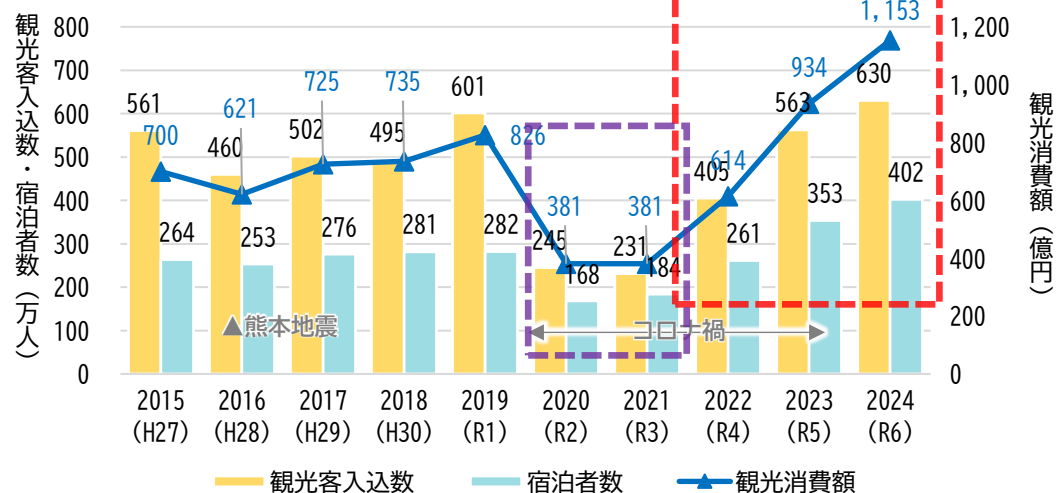
- ▶ 道路幅員、敷地・建物の規模など、ゾーンの特性や個性をふまえた、まちの再編やリノベーションによる目的性の高いコンテンツの創出
- ▶ まちへの投資意欲を高める防災性の向上

調査対象地区の現況（要点）

- ① コロナ禍には観光入込数・宿泊者数・観光消費額ともに落ち込んだが、現在は増加傾向。
客室稼働率は8割弱。インバウンドの増加も観光業を後押し

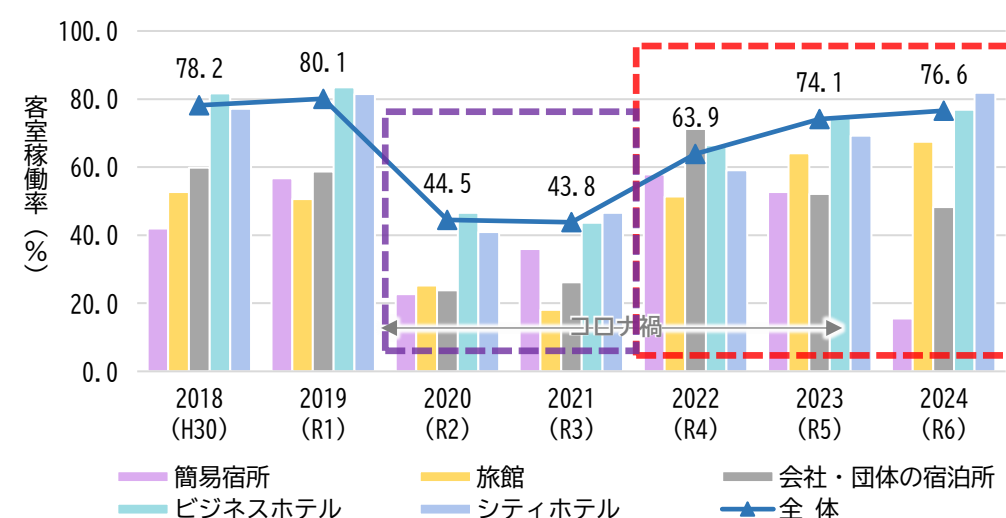
観光客入込数・宿泊者数・観光消費額の推移

出典：熊本市観光統計



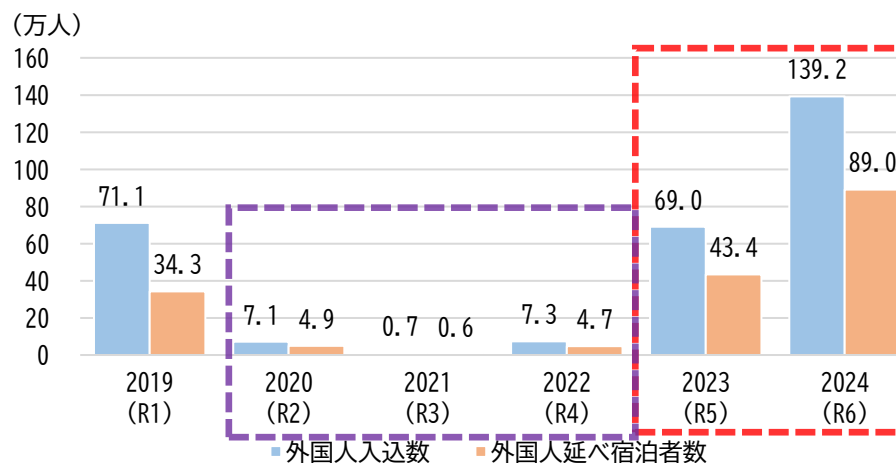
施設区分別客室稼働率

出典：熊本市観光統計



外国人観光客の状況

出典：令和6年(2024年)熊本市観光統計の概要

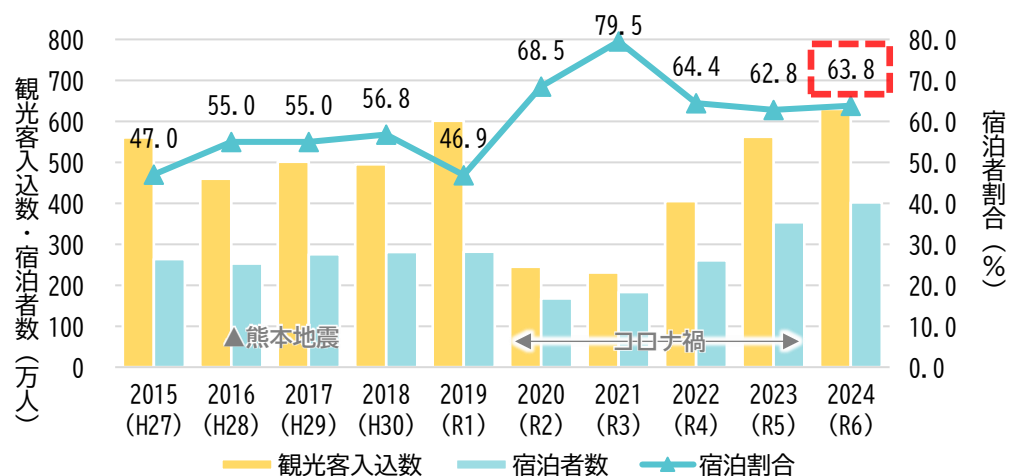


調査対象地区の現況（要点）

②市内に訪れる観光客の約 6 割が市内に宿泊するものの、熊本観光は滞在日数が短く、半数が 1 泊の宿泊に留まる

観光客入込数と宿泊者割合の推移

出典：熊本市観光統計



来熊前後に立ち寄った都道府県(2023(R5))

出典：熊本市観光マーケティング戦略
(熊本市「旅行者動態調査」より作成)



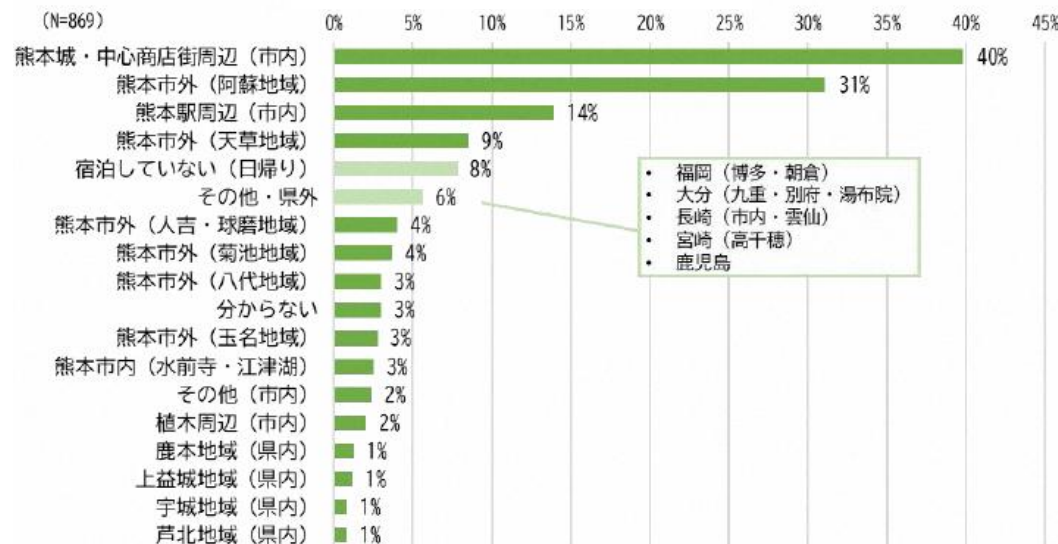
熊本を訪れた宿泊者の滞在日数(2023(R5))

出典：熊本市観光マーケティング戦略
(熊本市「旅行者動態調査」より作成)



熊本を訪れた際の宿泊エリア(2023(R5))

出典：熊本市観光マーケティング戦略
(熊本市「旅行者動態調査」より作成)



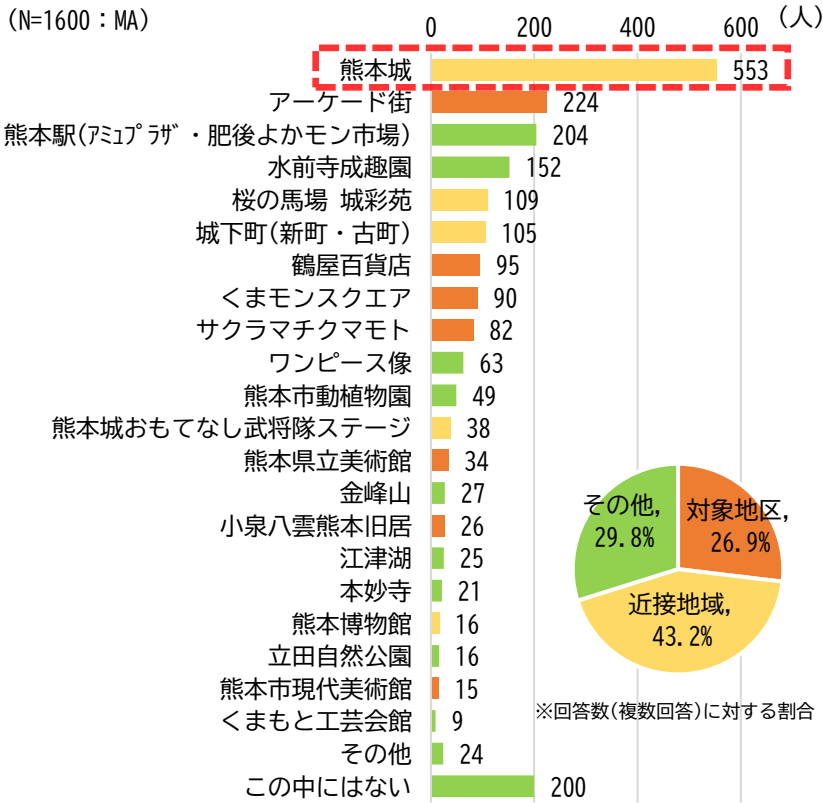
調査対象地区の現況（要点）

③熊本城の集客力が高いが、その他の観光スポット等には足をのばされていない傾向にある

■ 2024年版「全国の行ってよかった日本のお城ランキングTOP20」
出典：じゃらんニュース
全国20代～60代の男女1100名にアンケート）

1位	姫路城	【兵庫県】
2位	松本城	【長野県】
3位	五稜郭	【北海道】
4位	熊本城	【熊本県】
5位	大阪城	【大阪府】
6位	首里城	【沖縄県】
7位	名古屋城	【愛知県】
8位	若松城跡	【福島県】
9位	彦根城	【滋賀県】
10位	弘前城	【青森県】

■ 熊本旅行で訪れた観光スポット・施設(旅行者)(R5)
出典：熊本市観光マーケティング戦略（熊本市「旅行者動態調査」より作成）



■ 調査対象地区及び熊本城周辺の観光施設入園者数(R6) ※上位30施設
出典：熊本市観光統計

	施設名	入園者数(人)	備考
1	桜の馬場 城彩苑	1,983,931	
2	熊本城（特別公開エリア入園者数）	1,418,105	
3	熊本市動植物園	599,952	
4	フードバル熊本	571,500	
5	くまモンスクエア	451,867	
6	水前寺成趣園	440,093	
7	道の駅「すいかの里植木」	285,248	
8	わくわく座(城彩苑内)	281,210	
9	熊本市現代美術館	174,998	
10	熊本博物館	99,729	
11	熊本県立美術館 本館	77,622	
12	水の科学館	63,199	
13	熊本県立美術館 分館	38,901	R6.1-2月休館
14	くまもと文学・歴史館	38,319	
15	熊本県伝統工芸館	37,193	R6.10-12月休館
16	くまもと工芸会館	37,190	
17	田原坂西南戦争資料館	27,035	
18	岩戸観音・五百羅漢	13,617	
19	金峰森の駅みちくさ館	9,711	
20	監物台樹木園	8,986	R6.1-3月休館
21	熊本洋学校教師ジェーンズ邸	8,535	
22	小泉八雲熊本旧居	6,835	
23	植木温泉	5,597	
24	夏目漱石内坪井旧居	5,383	
25	熊本市塚原歴史民族資料館	4,724	
26	島田美術館	4,720	
27	立田自然公園	4,505	
28	北岡自然公園	3,179	
29	夏目漱石大江旧居	3,169	R6.11-12月休館
30	森林学習館	3,125	

調査対象地区の現況（要点）

⑥調査対象地区内に多くのホテルが分布。シティホテル・ビジネスホテルが多く立地し、近年ライフスタイルホテルが開業しているものの、ハイクラスホテルは立地していない

■宿泊施設の分布



■九州におけるハイクラスホテルの立地状況

- ①ザ・リッツ・カールトン福岡（2023～）
- ②ヒルトン福岡シーホーク（1995～）
- ③グランドハイアット福岡（1996～）
- ④エースホテル（2027予定）
- ⑤インターコンチネンタルホテル & リゾート（2030予定）

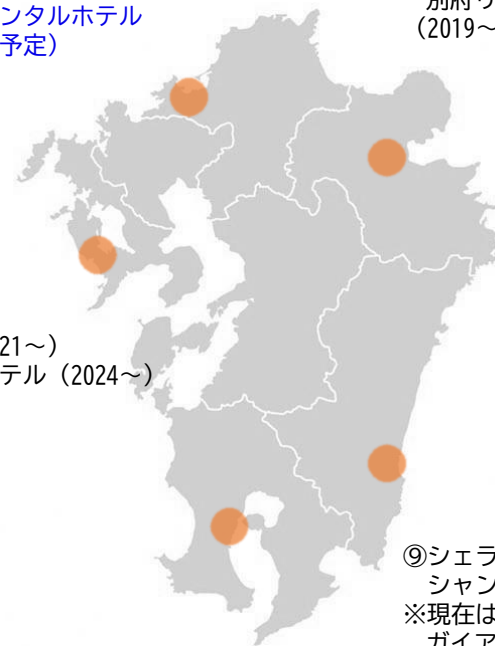
※青字は予定

⑧ANAインターコンチネンタル別府リゾート&スパ（2019～）

- ⑥ヒルトン長崎（2021～）
- ⑦長崎マリオットホテル（2024～）

⑩シェラトン鹿児島（2023～）

⑨シェラトン・グランデオーシャンリゾート（1994～）
※現在は、フェニックス・シーガイア・オーシャン・タワー（2025.6～）



調査対象地区の現況（要点）

- ①コロナ禍には観光入込数・宿泊者数・観光消費額ともに落ち込んだが、現在は増加傾向。客室稼働率は8割弱。インバウンドの増加も観光業を後押し
- ②市内に訪れる観光客の約6割が市内に宿泊するものの、熊本観光は滞在日数が短く、半数が1泊の宿泊に留まる
- ③熊本城の集客力が高いが、その他の観光スポット等には足をのばされていない傾向にある
- ④観光資源が徒歩圏に多く分布し、文化・エンターテインメント施設も複数立地
- ⑤下通周辺はナイトタイムエコノミーの素地となる飲食店が充実
- ⑥調査対象地区内に多くのホテルが分布。シティホテル・ビジネスホテルが多く立地し、近年ライフスタイルホテルが開業しているものの、ハイクラスホテルは立地していない

まちづくりの論点

▶熊本城をはじめとした徒歩圏に集積する観光資源、飲食、文化・エンタメ等多様なコンテンツや宿泊施設等、昼も夜もまちなかを歩いて観光しやすい環境を活かす

▶事業者や旅行者のニーズに適合した観光コンテンツや宿泊施設の充実
(例：高付加価値旅行者の誘客、国際会議の誘致等)

▶日帰り・短期滞在から滞在型の観光への拡大
(例：熊本城を軸としたストーリー性のあるまちづくりの推進、熊本城以外のまちの資源や強みを活かし、伸ばす等)

調査対象地区の現況（要点）

- ① TSMCの熊本県への進出を受けて、半導体関連産業の県内・市内への進出や新たな投資の動きが加速
 - ・過去10年の市内の企業立地件数は増加傾向で、2023(R5)年度には過去最高の30件を記録。2024(R6)年度は一服したものの、高水準を維持
 - ・企業立地件数に伴い、雇用計画数の累計も拡大傾向
- ② 調査対象地区内への新設・増設を伴う業務施設の立地箇所は、電車通り沿いに多い

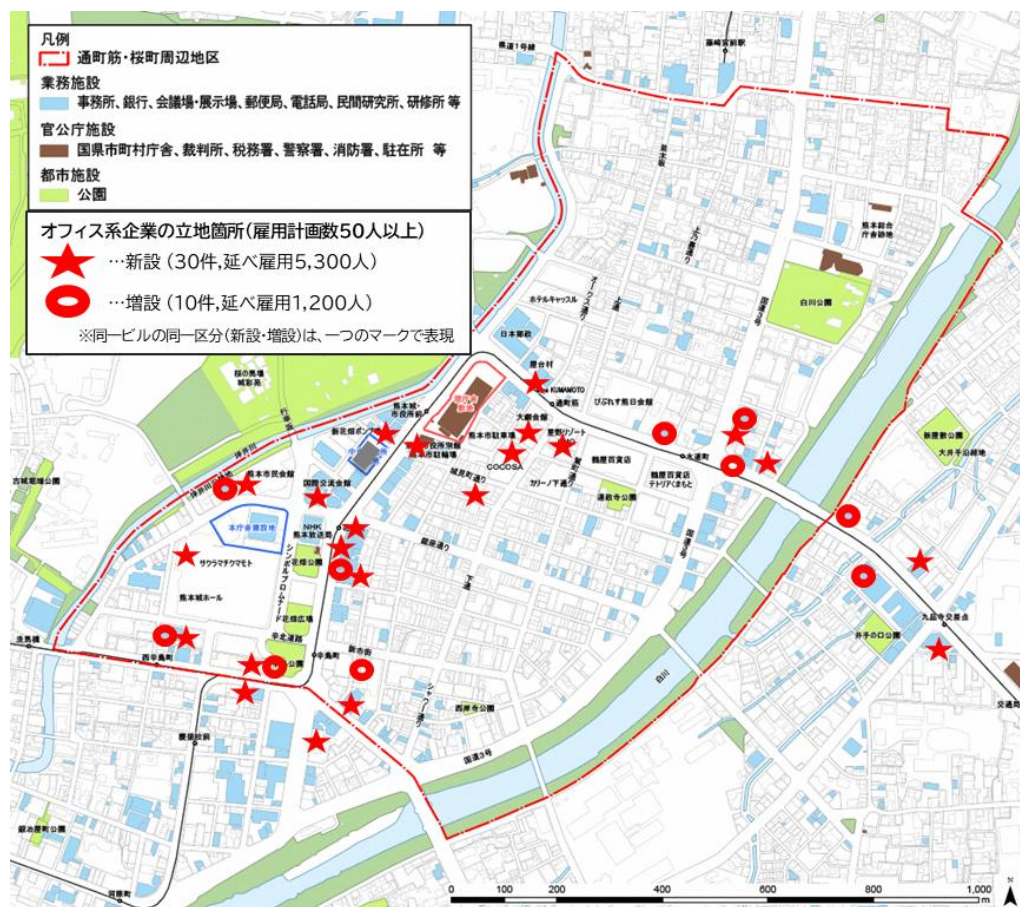
■ 熊本市内の企業立地件数の推移



■ 熊本市内の企業立地の雇用計画数(累計)



■ 業務施設の分布とオフィス系企業の立地箇所※

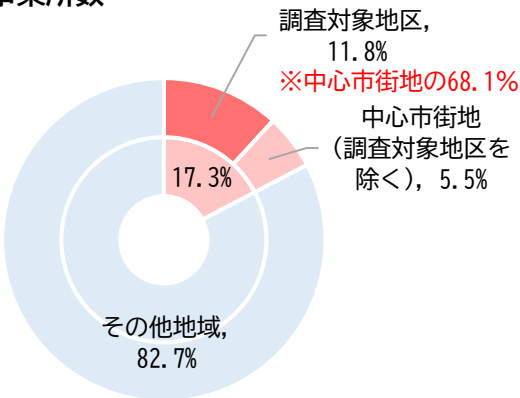


※オフィス系企業の立地箇所は1999(H11)年以降分

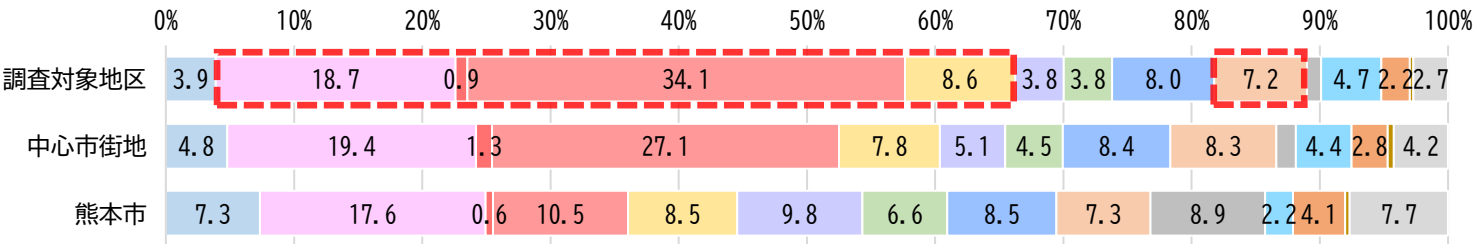
調査対象地区の現況（要点）

- ③市域面積約39,044haに対し、中心市街地は415ha(1.1%)、調査対象地区は126ha(0.3%、中心市街地の約 3 割)だが、事業所数・従業員数は、中心市街地が市全体の17～18%、調査対象地区が中心市街地の約 6 ～ 7 割を占め、熊本市の商業・業務の中心
- ④調査対象地区の産業構成は、飲食・小売・サービス業が中心

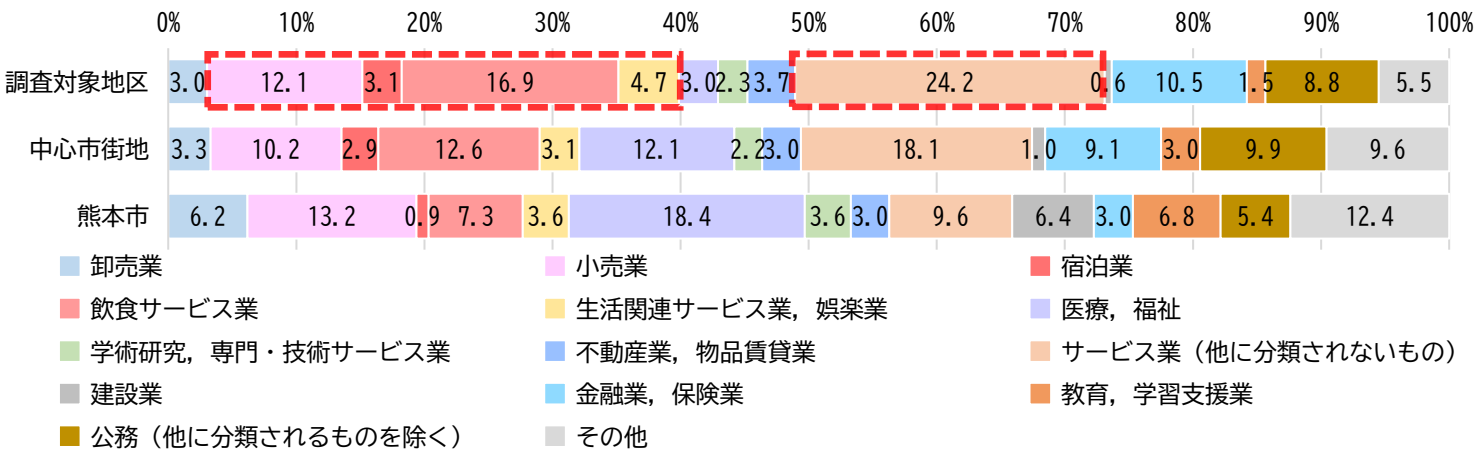
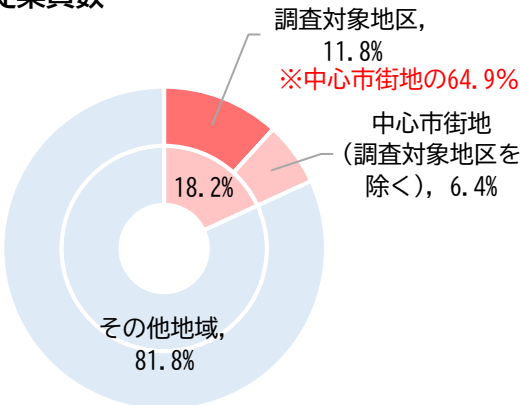
事業所数



出典：総務省・経済産業省「令和3年度経済センサス-活動調査結果」



従業員数



調査対象地区の現況（要点）

- ①TSMCの熊本県への進出を受けて、半導体関連産業の県内・市内への進出や新たな投資の動きが加速
- ②調査対象地区内への新設・増設を伴う業務施設の立地箇所は、電車通り沿いに多い
- ③事業所数・従業員数は、中心市街地が市全体の約 2 割、調査対象地区が中心市街地の約 7 割を占め、熊本市の商業・業務の中心
- ④調査対象地区の産業構成は、飲食・小売・サービス業が中心

まちづくりの論点

- ▶近隣市町村への半導体産業の進出による本市への注目度・機運を活かす
- ▶業務機能の集積、交通利便性等、働く場としての潜在力の高さを活かす

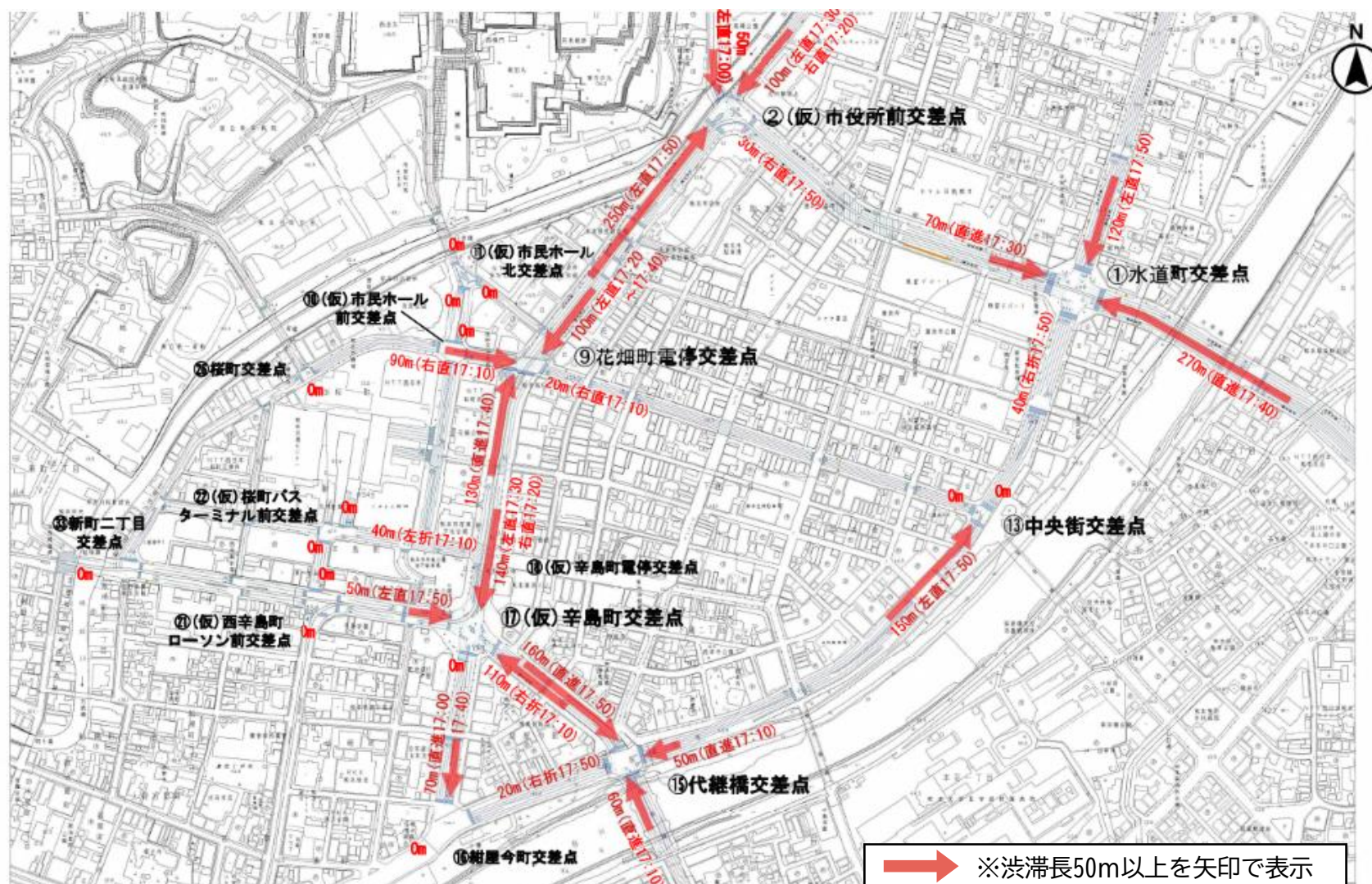
- ▶コロナ禍の観光産業の落ち込み等の経験や他都市におけるオーバーツーリズムの課題から、ひとつの産業に過度な依存をしない都市活動の軸の多重化が必要
- ▶企業のニーズを的確にとらえた戦略的な誘致を展開するとともに、スタートアップの支援を図ることで、新たな雇用の場を創出し、本市の経済成長を牽引する

調査対象地区の現況 (要点)

◆まちなかの交通について

①地区内を縦横断する幹線道路で交通渋滞が発生

■R7.7.15 17時台渋滞長計測結果



調査対象地区の現況 (要点)

<交通全般について>

②交通渋滞が慢性化している一方で、公共交通の利用は減少傾向

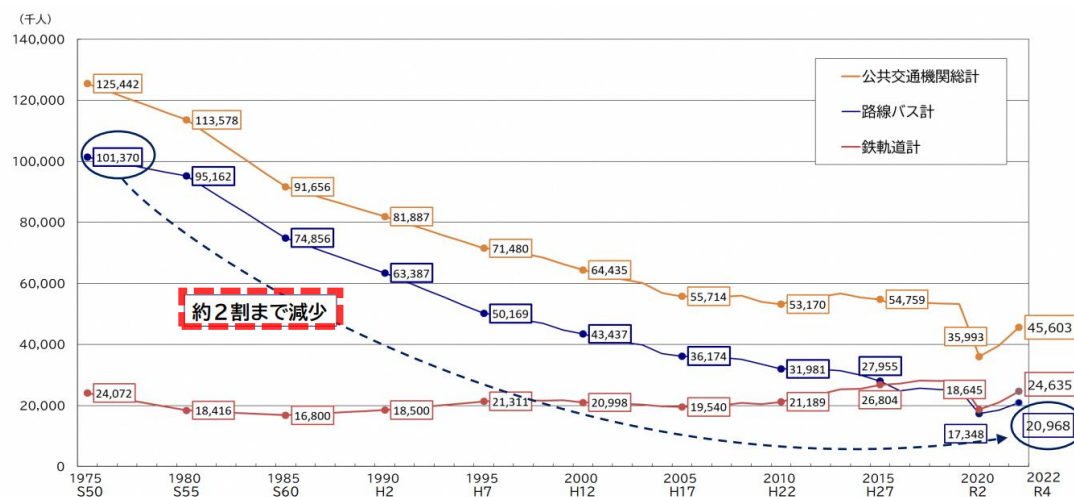
→県・市において「自動車1割削減、公共交通2倍、渋滞半減」をキーワードに「道路」、「公共交通」の面から、短期、中期、長期の対策に取り組む

■熊本市周辺の主要渋滞箇所



(出典:【主要渋滞箇所】 令和6年度第2回熊本県交通渋滞対策協議会資料(令和6年12月)
【混雑時旅行速度】 令和3年度 一般交通量調査結果WEBマップ)

■公共交通利用者数の推移



出典: 令和6年度熊本市公共交通活性化協議会資料より

調査対象地区の現況(要点)

<交通全般について>

③「都市交通マスタープラン」、「地域公共交通計画」、「自転車活用推進計画」、「まちなか駐車場適正化計画」など重要な計画がR7年度、R8年度に改定予定

■熊本都市圏都市交通マスタープラン R8.3改定予定

【交通ネットワークの将来像】

道路交通：2環状11放射道路網

公共交通：基幹公共交通8軸

- ・公共交通の整備方針
- ・道路の整備方針
- ・まちなか交通の整備方針

※交通体系の考え方(ベストミックス)



出典) 現行の熊本都市圏都市交通マスタープラン(平成28年3月)より

道路

公共交通

まちなか交通

■道路整備プログラム

■新広域道路交通計画 等

■熊本地域公共交通計画 R9.3改定予定

■自転車活用推進計画 R8.3改定予定 等

■ウォーカブルビジョン

■まちなか駐車場適正化計画 等
R8年度中改定予定

県市トップ会談、渋滞対策協議会、公共交通活性化協議会 等

- ・「道路施策」と「公共交通施策」の連携
- ・エリア毎の特性に応じた交通ネットワークの強化
- ・渋滞ピーク時をターゲットとした交通対策 など

駐車場適正配置検討委員会 等

- ・駐車場の総量と配置等の適正化
- ・外縁部への駐車場集約 など

R9.3策定予定

議論内容の落とし込み

検討状況の共有

■(仮称)庁舎周辺まちづくりプラン

庁舎周辺まちづくりプラン
(仮称)等検討委員会

- ・新庁舎整備に伴う駐車場規模の設定
- ・新庁舎整備、現庁舎跡地活用に伴う周辺交通影響及び対策
- ・新庁舎整備に伴うまちなかの回遊性向上

調査対象地区の現況(要点)

<まちなかの交通について>

④ 電車通り沿いの電停・バス停は、多くの人々が利用しており、まちの2つの核が交通結節点も担う
→公共交通を活かしたまちづくりを進めていく上で重要な場所となる

⑤ 駐車場が点在しており、駐車場整備地区においては需要に対し必要量が確保されていると考えられる
(R1調査時点,R7調査中)

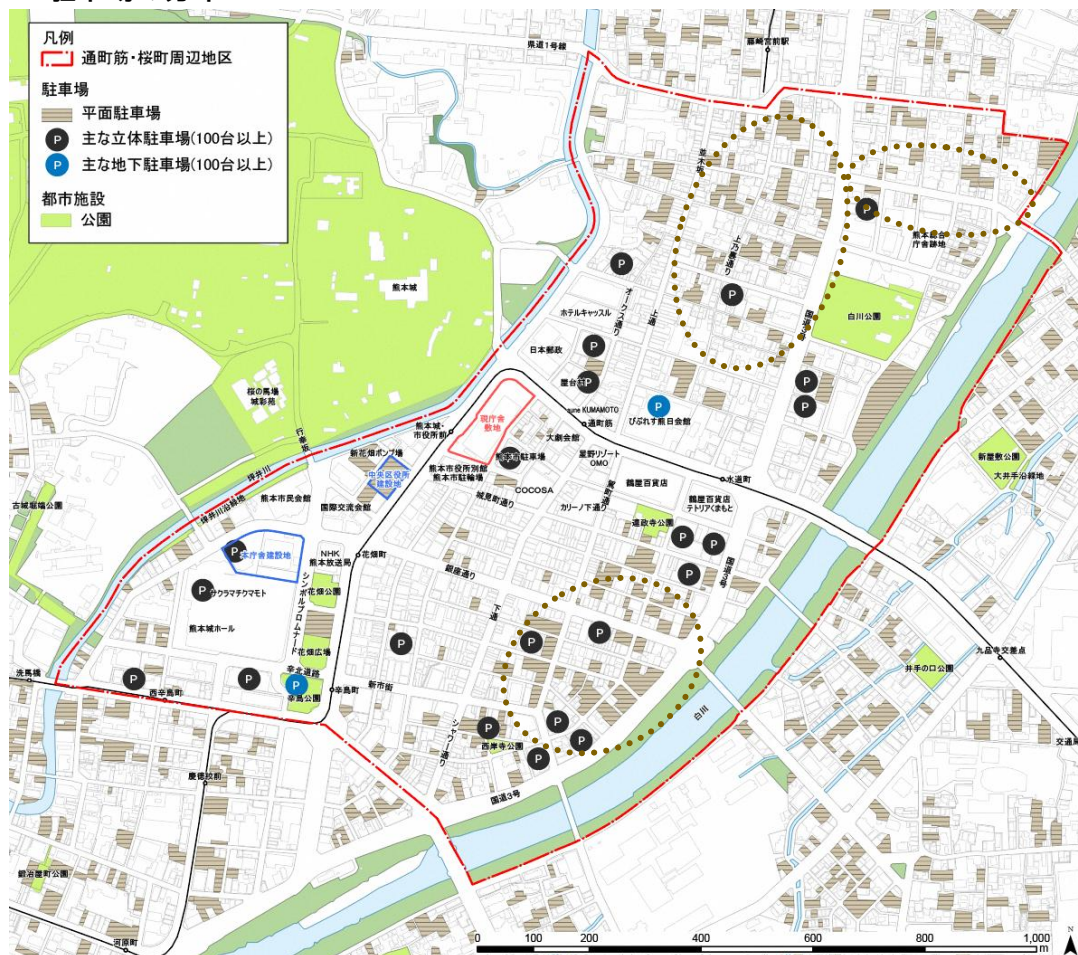
市電・バス・電鉄路線網と乗降客数



※バス停留所、市電電停の乗降客数は、10月第3本曜日の1日のICカードの利用実績(00データ)から各停留所、市電電停の乗降者数を集計し、全体のIC利用率をもとに推計値として算出したもの
 電鉄駅の乗降客数は、令和5年度のICカードの利用実績(00データ)から各駅の乗降者数を集計し、全体のIC利用率をもとに推計値として算出したものを1日平均したもの
 ※「桜町バスターミナル」、「通町筋」、「市役所前(熊本)」、「手取本町の2箇所のみ」のバス停留所の乗降客数は、各方面の合算分を表示

出典: 令和3年度都市計画基礎調査、熊本市資料をもとに作成

駐車場の分布



出典: 令和3年度都市計画基礎調査(一部更新)、熊本市資料

調査対象地区の現況(要点)

◆まちなかの交通について

- ①地区内を縦横断する幹線道路で交通渋滞が発生

＜交通全般について＞

- ②交通渋滞が慢性化している一方で、公共交通の利用は減少傾向

→県・市において「自動車1割削減、公共交通2倍、渋滞半減」をキーワードに「道路」、「公共交通」の面から、短期、中期、長期の対策に取り組む

- ③「都市交通マスタープラン」、「地域公共交通計画」、「自転車活用推進計画」、「まちなか駐車場適正化計画」など重要な計画がR7年度、R8年度に改定予定

→庁舎周辺まちづくりプラン(仮称)と共有・反映を図る

→庁舎周辺まちづくりプラン(仮称)等検討委員会では、特に以下を所掌

「新庁舎整備に伴う駐車場規模の設定」

「新庁舎整備、現庁舎跡地活用に伴う周辺交通影響分析及び対策」

「新庁舎整備を契機としたまちなかの回遊性向上」

＜まちなかの交通について＞

- ④電車通り沿いの電停・バス停は、多くの人が利用しており、まちの2つの核が交通結節点も担う

→公共交通を活かしたまちづくりを進めていく上で重要な場所となる

- ⑤駐車場が点在しており、需要に対し必要量が確保されていると考えられる(R1調査時点,R7調査中)

まちづくりの論点

▶バス・市電・鉄道等公共交通でのアクセスのしやすさと2核3モールとモビリティの結節性の高さを活かす

▶公共交通利用促進、車の総量の抑制など、車中心から人中心のまちへの転換のさらなる推進

4-2) 歩行者ネットワーク

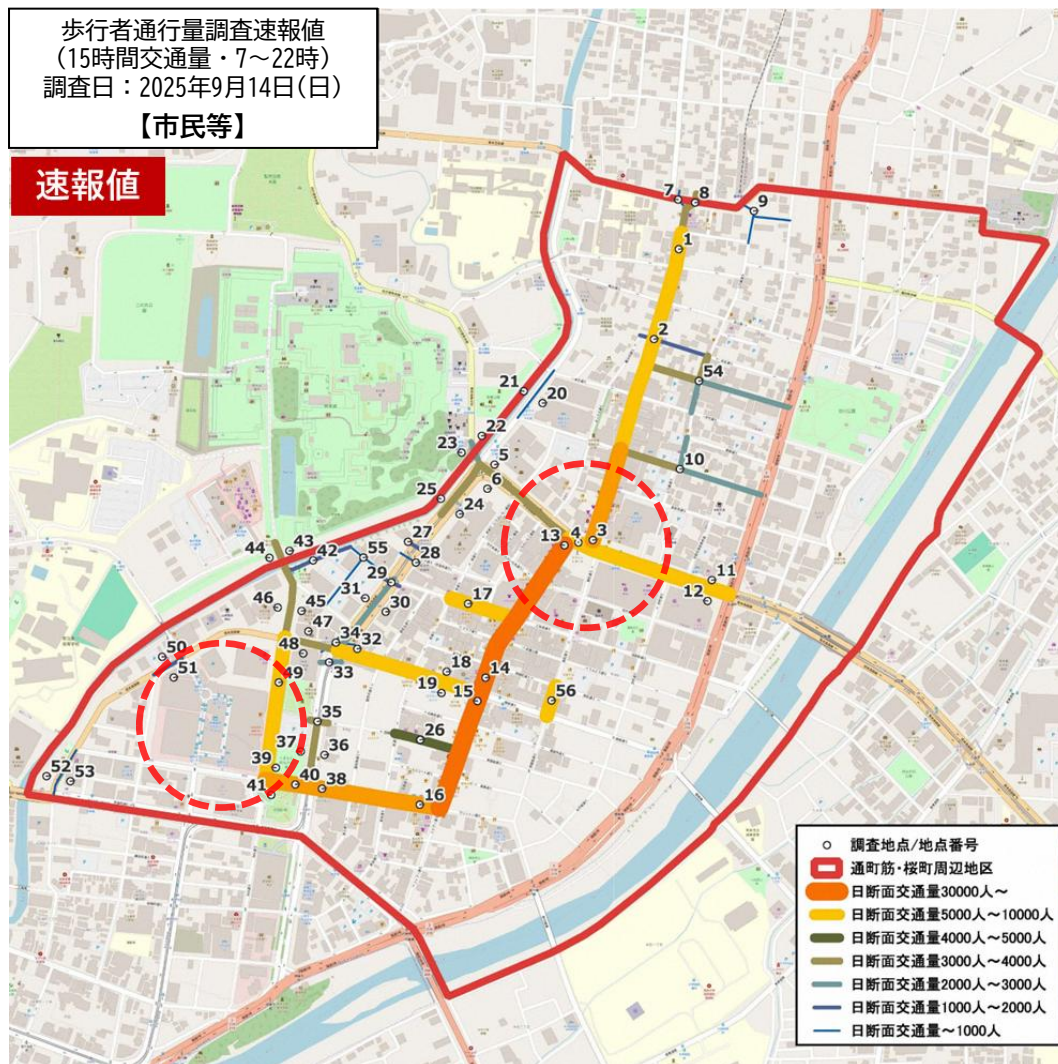
調査対象地区の現況（要点）

- ① 市民、観光客ともに、2核3モールが主軸の回遊傾向
- ② 観光客は熊本城への動線が顕著。下通に対して上通の通行量が少ない

歩行者通行量調査速報値
(15時間交通量・7~22時)
調査日：2025年9月14日(日)

【市民等】

速報値



歩行者通行量調査速報値
(15時間交通量・7~22時)
調査日：2025年9月14日(日)

【観光客】

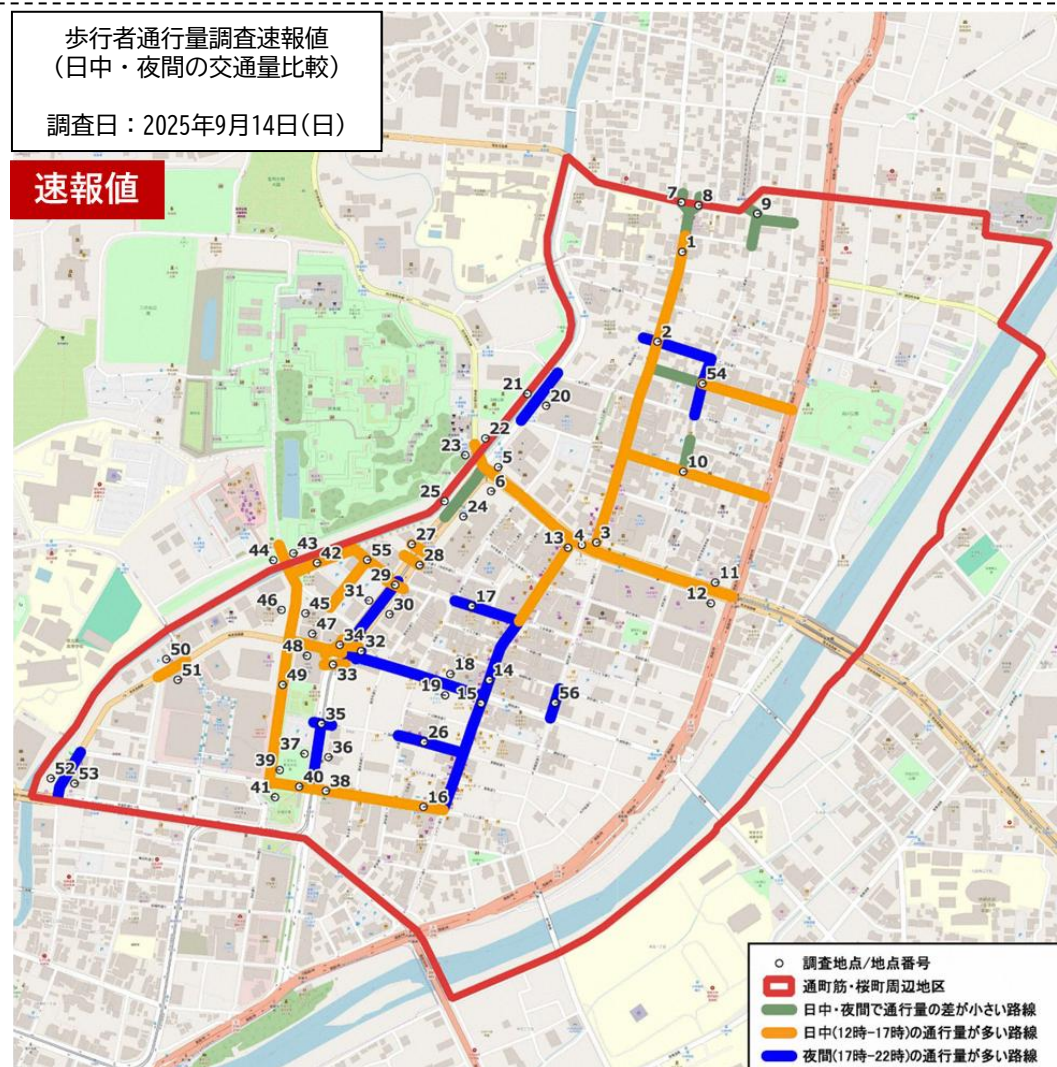
速報値



調査対象地区の現況（要点）

③同一路線でも日中と夜間では通行量に変化

- ・熊本城～桜町、新市街、通町筋、上通～並木坂は日中の通行量が多い
- ・下通周辺、上乃裏通りの一部等は夜間の通行量が多い



調査対象地区の現況（要点）

- ④花畑・桜町エリアから中心商店街までの電車通りによる横断は、サンロード新市街前の交差点が主となる
地下通路は地上横断の約 1 割で利用は少ない、歩道橋は平面横断の 3 割程度
- ⑤熊本城側から中心商店街側を見た場合、電車通り沿いに中高層ビルが連続し、空間の抜けが少ないこと、
低層階に商業用途が少ないこと等から、ビル群の後背部の賑わいが見えにくい



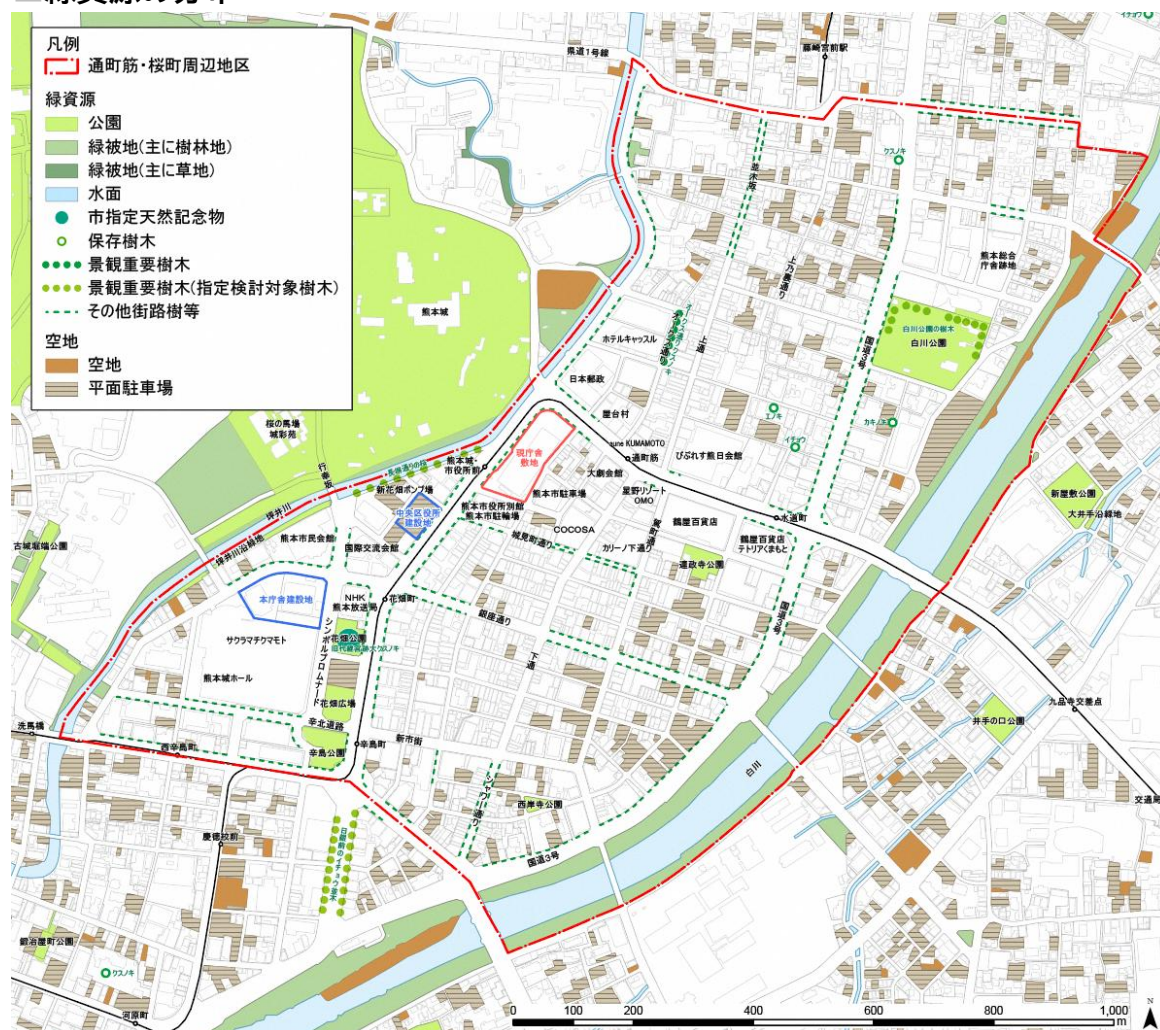
熊本城側から見た繁華街側の景観



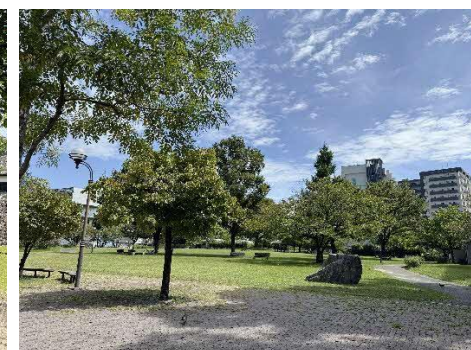
調査対象地区の現況（要点）

⑥熊本城と2つの川に挟まれた水と緑の資源豊かな地区。特に桜町では熊本城に向かうプロムナードと一体となった豊かな広場空間と都市軸を形成

緑資源の分布



長堀



白川公園



シンボルプロムナード



花畑公園

調査対象地区の現況（要点）

- ①市民、観光客ともに、2核3モールが主軸の回遊傾向
- ②観光客は熊本城への動線が顕著。下通に対して上通の通行量が少ない
- ③同一路線でも日中と夜間では通行量が変化。下通周辺や上乃裏通りなどは夕方以降に通行量が増加
- ④花畑・桜町エリアから中心商店街までの電車通りによる横断は、サンロード新市街前の交差点が主となる
地下通路は地上横断の約1割で利用は少ない、歩道橋は平面横断の3割程度
- ⑤熊本城側から中心商店街側を見た場合、電車通り沿いに中高層ビルが連続し、空間の抜けが少ないこと、
低層階に商業用途が少ないこと等から、ビル群の後背部の賑わいが見えにくい
- ⑥熊本城と2つの川に挟まれた水と緑の資源豊かな地区。特に桜町では熊本城に向かうプロムナードと一体となった豊かな広場空間と都市軸を形成

まちづくりの論点

- ▶2核3モール+東西方向のラダー型の道路や交通規制による歩行者回遊の基盤を活かす
- ▶シンボルプロムナードの歩行者空間化など、車から人への転換についての成功体験を活かす
- ▶昼と夜の時間帯別の賑わいを活かす
- ▶白川・坪井川の水と緑、花畑広場、シンボルプロムナード、白川公園等の広場空間を活かす

- ▶電車通り沿い(現庁舎～花畑広場)のビル群、街区構成等により分断している東西の賑わいや人の流れをつなぎ、回遊を生み出す(低層部の賑わい機能の導入、視認性の確保等)
- ▶上質な空地や小さな緑空間など、まち歩きを楽しむことができる空間の整備
- ▶道路構成の変更等による歩行者空間化、公共交通利用促進、車の総量の抑制など、車中心から人中心のまちへの転換のさらなる推進

3. 庁舎周辺まちづくりの視点と方向性

1) 庁舎周辺まちづくりの視点

- 1. 市民生活を守り、企業に選ばれる、災害に強い「まち」をつくる**
- 2. 多様な経済活動が起こり、連鎖する、活発な新陳代謝が生まれる「まち」をつくる**
- 3. 個性的で魅力的な歴史や都市文化が息づく、市民が誇り、世界が憧れる「まち」をつくる**
- 4. ウォーカブルな都市のレガシーを継承し、更なる車中心から人中心へと転換を進め、歩くたびに新たな発見が生まれる「まち」をつくる**

(防災)

- ・老朽化したストックの更新・整備（共同化・建替え・耐震＋リノベーション等）
- ・浸水対策 等

(賑わい・回遊)

- ・新庁舎、区役所、現庁舎跡地の回遊性を高め、2核3モールを発展させた大きな人の流れをつくる
- ・歩くたびに小さな発見がある魅力的な目的地や通りの形成 等

(ひと)

- ・若年層が働き、生活し、活動する場の創出
- ・文化、芸術などに携わる主体が育ち、活動できる場の創出 等

(都市文化)

- ・熊本城を活かしたストーリー性のある観光施策の充実
- ・歴史、市民文化、アート、音楽、ナイトライフなど、熊本城だけではない多様で個性的な魅力を活かした滞在型観光の魅力の強化 等

(まちの成長)

- ・都市の中心部にふさわしい都市機能の導入、企業誘致、公共貢献などを伴う大規模建替えの促進
- ・地域に根ざした事業者や担い手による投資やチャレンジに対する支援 等

(まちなか交通)

- ・駐車場の適正配置、総量抑制
- ・公共交通利用促進 等

多様な人々の活動、交流が交差し、一人ひとりのたくさんの物語が生まれる「まち」

